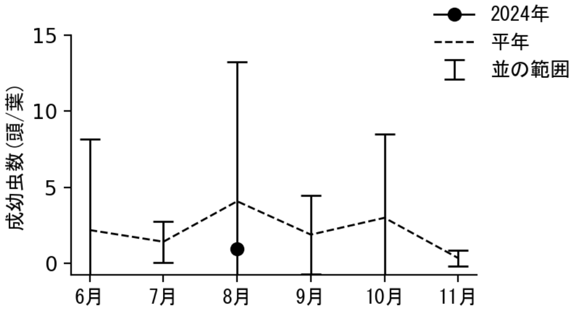
令和　６ 年度　　９ 月予報

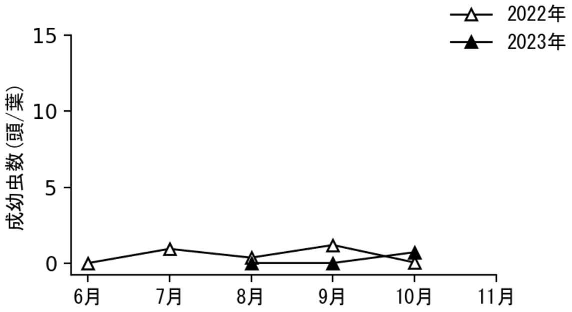
| 作物 | マンゴー | | 地域 | 宮古群島 |
|---|---|---|---|---|
| 病害虫名 | ①　チャノキイロアザミウマ | | | |
| 調査結果 | ８ 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予　報 | ８ 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | ９ 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↘） | | |

調査結果

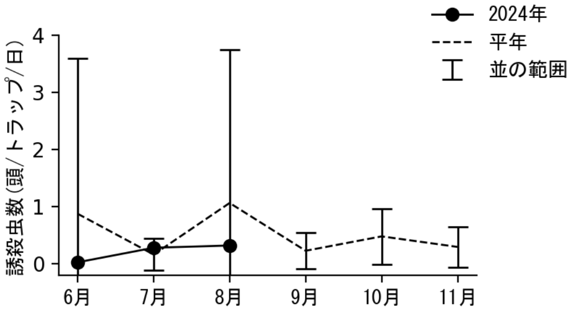
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



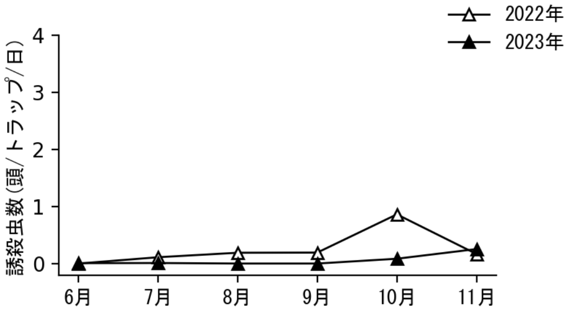

葉当たり成幼虫数の推移（過去２年）




トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）




トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去２年）




・発生施設率60.0%（平年：63.3%）

防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ナガエコミカンソウ

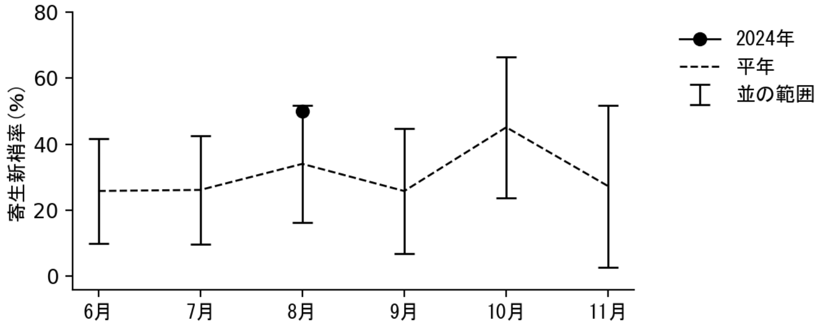
令和　6 年度　　9 月予報

<table>
<tr><td>作物</td><td colspan="2">マンゴー</td><td>地域</td><td>宮古群島</td></tr>
<tr><td>病害虫名</td><td colspan="2">② マンゴーハフクレタマバエ</td><td colspan="2" rowspan="3"> </td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td>8 月の発生量（平年比）</td><td>並</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予報</td><td>8 月からの増減傾向</td><td>↘</td></tr>
<tr><td>9 月の発生量（平年比）</td><td colspan="3">並</td></tr>
<tr><td colspan="2">予報の根拠</td><td colspan="3">平年の発生量の推移（↘）</td></tr>
</table>

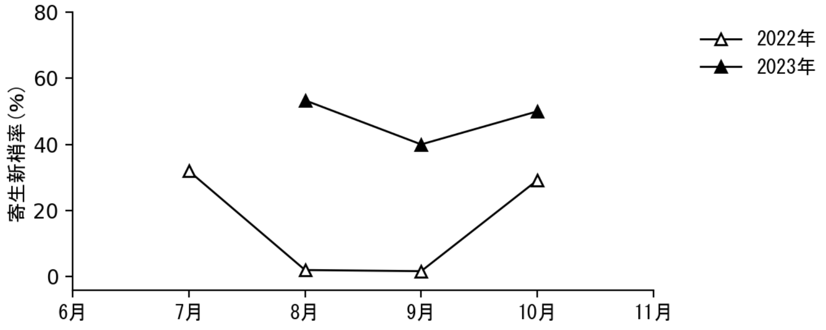
調査結果

寄生新梢率の推移

＜今期と平年＞




＜過去２年＞




・発生施設率100%（平年：65.7%）

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

被害葉

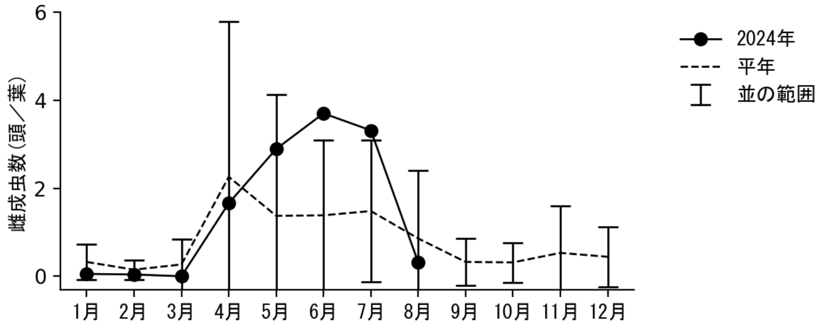
令和　6 年度　　9 月予報

| 作物 | マンゴー | | 地域 | 宮古群島 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 病害虫名 | ③ ハダニ類 | | | |
| 調査結果 | 8 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報 | 8 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | 9 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↘） | | |

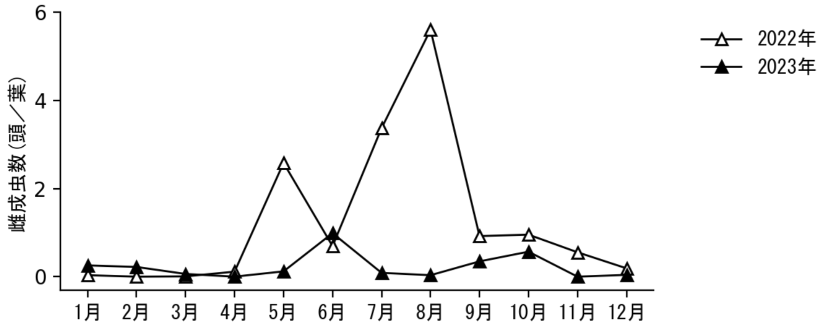
調査結果

雌成虫数の推移

＜今期と平年＞




＜過去２年＞




・発生種：シュレイツメハダニ

・発生施設率40.0%（平年：34.7%）

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状

マンゴーツメハダニ